

学び舎通信 8月号

町内小中学校の情報を毎月お届けします



小

新聞記事を読み比べよう

河北新報社の新聞記者を迎えて、5年生の国語「新聞記事を読み比べよう」の授業を行いました。子どもたちは、新聞の構成や取材の仕方について熱心に聞いていました。また、新聞の見出し作成にも取り組みました。見出しを付けるポイントを教えていただき、自分が新聞記者になったつもりで、真剣に見出しを作成しました。

縦割りで楽しく遠足!

南小伝統の「たてわり遠足」を実施しました。6年生を中心とした8の縦割り班ごとに、写真のように手をつなぎながら歩く様子は、頼もしさと思いやりを感じることができました。目的地の中島公園や甲子公園に着くと、上級生と一緒に鬼ごっこをしたり、ブランコを押してあげたりと、縦の関係を生かしながら楽しく遊ぶことができて良かったです。



南小



金小

七夕集会

7月2日に七夕集会を行いました。たてわり班ごとに高学年が低学年のお世話をしながら短冊や飾り付けを行いました。合計9本の竹に児童一人一人の願いが飾られました。その中には次のような願い事があったので、紹介いたします。
「家ごとくみんながしあわせになれるように。そして、しょうらいとこやさんになれるように」優しさが感じられますね。
七夕飾りは学校の校舎に1週間ほど飾られました。願いが叶えられるといいですね。

大中



郡陸女子総合優勝7連覇
～男子は総合2年連続準優勝～

6月12日に郡陸上大会が行われました。選手団と応援リーダー、1年生全員が参加しました。我が「仙南の雄大中生」がこのような成績を残すことができたのは一つの大きな誇りです。7連覇とは今の中学1年生が小学校に入学した年から優勝を勝ち取ってきたこととなります。2年前まで男女アベック優勝5連覇でしたから大変な記録であります。そんな誇りを掲げ、仙南の雄大中生としての意識を高めていきたいです。



金中

「一日一日を精一杯生きる」

7月3日に全校生徒で名取市閑上地区を訪問し、大震災の犠牲者を悼み、名取市が建立した慰霊碑や旧閑上中学校の校舎内等を見学してきました。そこで、「閑上震災を伝える会」の語り部さんから、体験にもとづいたお話を聞いてきました。語り部さんの話す言葉一つ一つに力があり、震災を風化させまい、復興・再生していこうとする強い思いが伝わってきました。それを生徒たちはしっかりと受け止め、自分はどう生きるかを本気で考えた貴重な一日となりました。

身近な自然再発見

…人間と共生する昆虫たち…



ハグロトンボ

16神様と呼ばれるトンボ

八月の暑い日差しのもと、上大谷の用水路で追いかけっこをしているハグロトンボのキャップに出会いました。二匹は蝶のように黒い羽を立ててヨシの葉に止まりました。黒い羽が印象的なこのトンボは、昔から私たちに親しまれてきました。

私が子どものころはハグロトンボを「神様トンボ」と呼んでいました。こんな名前と呼んだのは、止まった時に羽を擦り合わせる動作が神様を拝む時のしぐさにそっくりだからです。あと、お盆の頃によく見かけることや薄暗い神社裏の林内で飛んでいることも神様の名にぴったりでした。

そもそも、このハグロは、江戸時代に結婚した女性が歯を黒く染める時に使った鉄漿

(おはぐろ)の黒さからきています。でも、このお歯黒の習慣は大正時代までで終わったようです。
平成の今なら、お金をもらっても歯を真っ黒にするなんてお断りというご婦人ばかりでしょう。男だつて歯が白くないと「イケメン」と呼べないご時世です。このように時代によって歯の白さ、黒さが逆になるのは人間界だけの現象でしょうね。

今どきの娘さんは眼のまわりにアイシャドウを黒く塗っておしゃれを楽しんでいます。なので、ハグロトンボより「アイシャドウトンボ」のほうが似合つかも知れません。でも、こんなおバカなことを考える「極楽トンボ」には神様トンボのバチがあたるかも。

そんな話とは関係なく、ハグロトンボたちは今日も涼しげに水辺を飛んでいます。夏を告げる風物詩としてこの先いつまでも残ってほしいものです。次回は鳴く虫たちの泣きごころの話です。

元金小校長 昆虫教室(町教育委員会主催)講師 鈴木健司さん